Jetpack(アクセス解析)が有料化されたため「WP Statistics」に変更

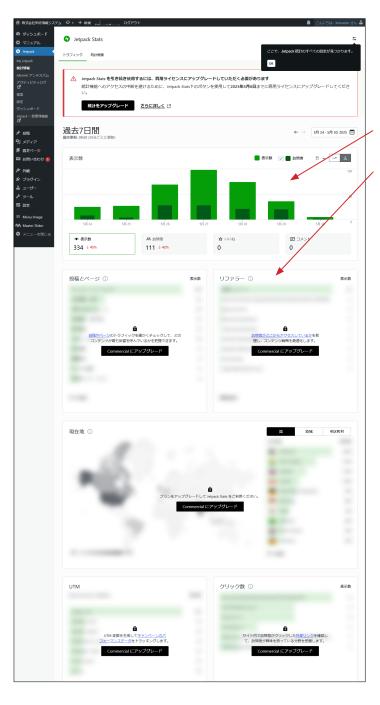
アクセス解析のために使用していた Jetpack プラグインが有料化されたため、代替プラグインとして「WP Statistics」に切り替えます。

表示や機能が全く同じというわけではありませんが、だいたいの指標を把握することができます。

ただし、Jetpack の過去のアクセスデータは反映されません。WP Statistics がインストールされた日からのアクセスデータとなります。

なお、Jetpack と WP Statistics のアクセスデータは必ずしも一致しません。

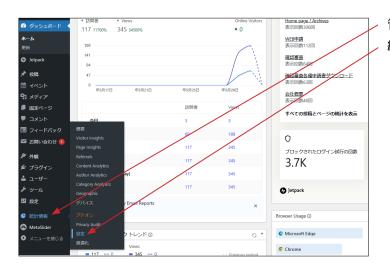
有料化された Jetpack



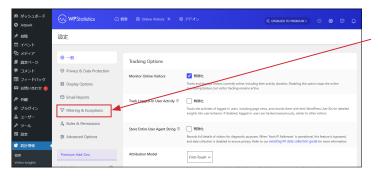
過去7日間のホームページへのアクセス数だけは表示されますが、

その他のアクセス解析は表示されなくなりました。

「WP Statistics」の設定

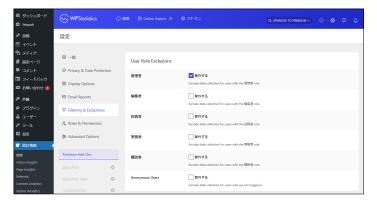


管理画面のメニューに「統計情報」が表示されています。 統計情報>設定をクリックします。



左図のように、設定画面が表示されるので、

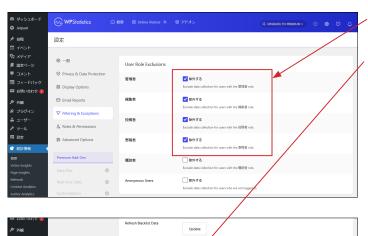
Filtering & Exceptions をクリックします。



ここで、アクセスの除外設定を行います。

記事作成や更新のため、ホームページには管理者をはじめ、編集者や寄稿者、投稿者など、多くの更新者がアクセスすることになります。

この場合、このままアクセスデータとして計上すると、正確な 測定が難しくなるため、ログインユーザーをアクセスデータか ら除外する設定を行います。



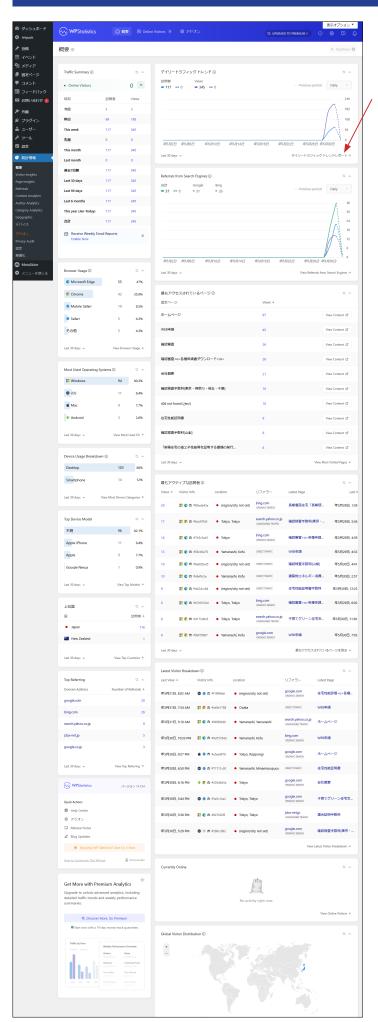
General Exclusion

編集者、投稿者、寄稿者を追加でチェックします。

最後に画面下の「更新」ボタンをクリックして完了です。

その他の設定は操作不要です。

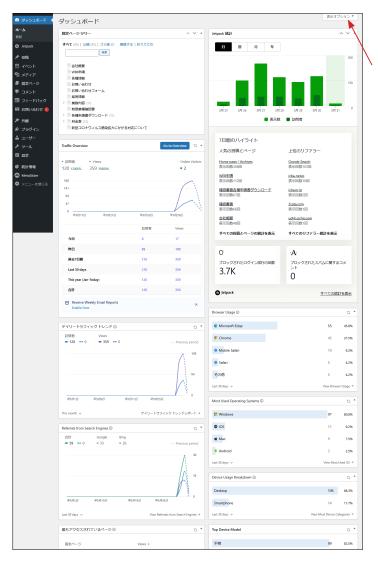
統計情報 > 概要 アクセスデータ確認方法



管理画面のメニュー、統計情報>概要で、左図の情報が一気 に確認できます。

各ブロックの右下のリンクをクリックすると詳細画面が開きます。

ダッシュボード アクセスデータ確認方法

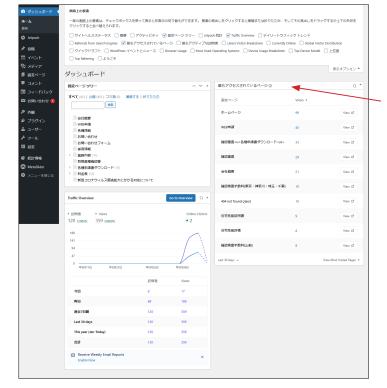


左図のように、ダッシュボードにも概要が表示されます。

右上の「**表示オプション」**をクリックして、ブロックを非表示 にすることができます。

表示オプションをクリックすると、下図のようにチェックボックスが展開するので、非表示にしたいブロックのチェックを外します。



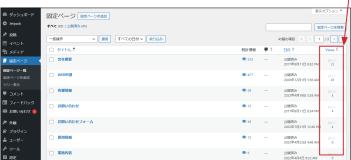


たとえば、「Traffic Overview」と「最もアクセスされているページ」を残し、あとは非表示にすると左図のようになります。 Jetpack 統計も非表示にしました。

ブロックの上部をドラッグして、配置を変更することができます。

投稿一覧、固定ページ一覧で閲覧数をチェック





投稿一覧、固定ページ一覧の画面で、

Views 欄に閲覧数が表示されます。

クリックすると詳細画面が開きます。

統計情報は Jetpack による統計です。そのまま表示しておくことも可能です。

画面右上の表示オプションで、非表示設定も可能です。